

安心と交流を生む合理的な機能配置

テーマ①「安心拠点」

社会福祉協議会(2階) 2階の吹抜けに面 した建物の中央に配置し、施設全体の管理 も行い易い計画です。

保健センター(2階) 浸水リスクのない2 階に配置します。社協と隣接するため相互 に連携が図りやすい計画です。

交流部門(**1・2階**) 1階には "**交流のイマ**" や調理室など気軽に立ち寄れる施設を配置し、2階には **"暮らしのイマ"** を起点に避難所となるホール等を配置します。

診療所(1階) 高い地盤に配置し、RC躯体や防水建具により浸水対策を徹底した上で、利便性の良い1階に配置します。

行政窓口(1階) 窓口はアクセスの良い1 階中央に配置します。保存が必要な書庫等 は浸水リスクの無い2階に配置します。

茶畑への眺望

東側に大きな吹抜け空間を設けて、 各階から茶畑への眺望が楽しめる。 釜塚の茶畑

2階

暮らしのイマ

和室

交流のイマ

暮らしのイマ(2階)

各部門を緩やかにつなげる空間です。気軽に立ち寄れる相談スペースや、貸室などと連携した憩いの空間。

交流のイマ(1階)

調理室やカフェスペース、図書コーナーなど、町民の自然な交流を創出する空間。地域の魅力を発信するスペースとしても機能する。

ヒロバ

屋根のある半屋外空間は調理室や交流のイマと繋がる居場所や活動スペースとなる。周辺からの誘目性の高い賑わいあふれる風景をつくる。

庁舎との連携

2階には庁舎との連携に配慮してブリッジを計画。

思いやり駐車場・車寄せ

| 庁舎からも利用できる位置に屋根付 | きの交通施設を配置。

2つのエントランス

| 南北それぞれに出入口を設け、どこ | からでもアクセスし易い計画。

通りニワ

| 庁舎との間に小さな居場所を点在さ | せた通りニワが敷地全体を繋ぐ。

大きな駐車場の確保

南西に大きな駐車場を設け、一般者 や職員用に利用。(敷地内 20 台)

浸水対策と利便性の両立 デーマ①「安心拠点」

敷地内の高低差を有効活用することで、過剰な造成等を行うことなく 必要な浸水対策を徹底します。精密機器や高価な設備などが多い診療所 は高い地盤に配置するとともに、RC 躯体や防水建具などにより浸水想 定レベルにおいても被害を最小限に抑える対策を行います。福祉避難所 として想定しているホールや和室等、保健センター部門を安全なレベル にある2階に配置し、避難所として機能するよう整備します。

経済性に配慮した構成 デーマ①「安心拠点」

1階部分を有効活用することで、ピロティ面積を縮減し人工地盤にかかるコストを極力縮減します。既存建物との接続や車寄せ等の整備も含め、想定工事費でまかなう計画です。

地形を活かした断面構成



| 概工事費内訳 | 金額 |
|------------|--------|
| 建築本体 | 7.7 億 |
| 人工地盤(ピロティ) | 0.7 億 |
| 既存施設接続等 | 1.0 億 |
| 外構工事 | 1.0 億 |
| 合計 | 10.4 億 |







敷地全体をつなぐ外部空間 吹抜けによりつながる内部空間

テーマ②「シンボル拠点」

庁舎との間に敷地を南北に横断する"通りニワ"を計 画し、敷地全体の繋がりを生みます。建物内と一体的に 利用できる "ヒロバ" やテラスは大小様々なアクティビ ティの受け皿となり、賑わいや交流を創出するきっかけ となります。建物内は吹抜け中心に各部門が適度な繋が りを持ちながら、自然と共存できる空間構成です。

1、2階の"イマ"に面して社協事務 (2F)、行政事務 やボランティア室 (1F)を設け、常にハンティキャッ プのあるヒトや幼児、高齢者が安心に過ごせるインクルー シブな場をつくります。

可変性の高いホール

可動間仕切と可動ステージによるフレキシブ ルなホールを計画します。1室から6室での 利用が可能であり、暮らしのイマとホールの 境界も可動間仕切とすることで、暮らしのイ マと一体的な利用も可能です。





周囲の山々を眺められ る展望テラス

可動間仕切りにより最 大6分割で使える平土 間式の多目的ホール

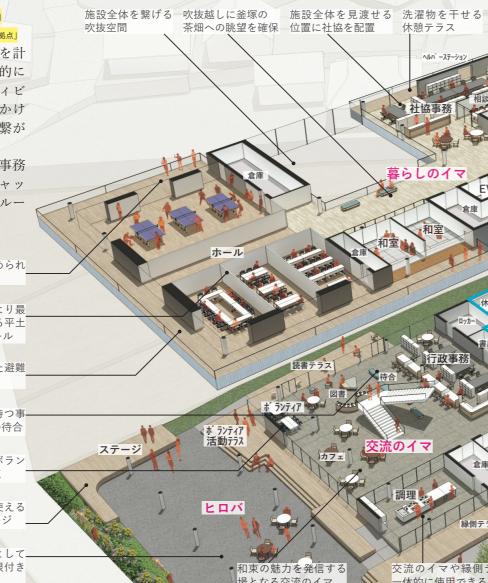
日射制御を兼ねた避難 バルコニー

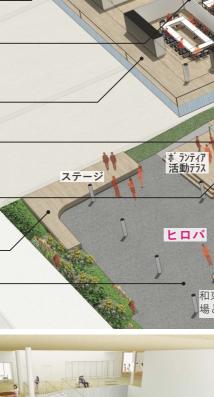
本を読みながら待つ事 ができる福祉課の待合

テラスに面したボラン ティア団体の拠点

イベント時にも使える 小上がりのステージ

検診車スペースとして. も利用できる屋根付き の屋外空間







休憩テラス

ゆったりしたスロープを設けるこ

とでユニバーサルデザインに配慮



庁舎と接続するブリッジは職

員の休憩場所として利用可能

宁舎利用者も使える屋根付き

の思いやり駐車場

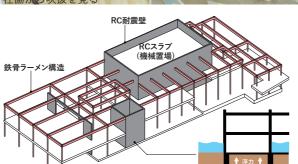


構造計画 デーマ①「安心拠点」

コ ンクリートと鉄骨の混構造による、地震や水 害に強い架構です。コンクリートで造られた2つ のコアと耐震壁により、大地震にも耐えられる水 平耐力を確保します。荷重の大きな機械設備はコ ンクリートコアの上に配置し、躯体に過度な負担 がかからないよう配慮します。鉛直荷重のみを支 持する柱は鉄骨造で計画し、軽やかな架構の実現 や長スパンへの対応を可能とします。

利便性と防災機能の両立 デーマ① 「安心拠点」

日常的な利便性に配慮した断面構成とするとと もに、浸水や地震などの災害時における防災機能 の充実を図ります。利用者のアクセシビリティ、 庁舎を含めた各部門同士の機能連携、ヒロバや交 流のイマ、調理室など建物内外の柔軟な連携によ り、様々なシチュエーションに対応できる便利で 安全な計画です。



平常時:利便性と連携に配慮

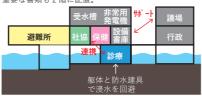
舎との連携に配慮して、行政窓口や診療所 を1階に配置。カフェや調理室など、市民活動のきっ かけとなる施設も接地性に配慮して1階に配置。



浸水時:人命救助と機能維持

サーバーやキュービクルなど機能維持に必 要な設備を2階より上に配置。1階の診療所についても、 RC 躯体や防水扉等により浸水対策を徹底。行政窓口の 重要な書類も2階に配置。

茶畑への眺望を確保 位置に社協を配置



調システムなどにより環境負荷低減に配慮した建 築を創ります。中間期は吹抜けを活用した重力換 気により効果的な換気を行うことで、非空調で快 適に過ごすことができます。夏冬の空調稼働時に も、太陽光集熱の活用した居住域空調など効果的 な空調を行います。浸水リスクや設備更新に配慮 して、重要な設備は2階または屋上に配置します。

環境計画 デーマ① 「安心拠点」

地震等の災害:市民の安全と災害支援

ピロティ空間を炊き出しや救援物資受け入れ等 に有効活用します。診療所はトリアージ等を行 い、他の外部の医療機関とも連携しながら有事 における医療支援を行う



庇による 日射制御 太陽光発電貯水槽 自然エネルギーの活用や高断熱化、高効率の空 重力換気 ホール 倉庫 電気/電算/書庫/倉庫 交流のイマ 車寄せ 行政 ↑ 診療所 WC ヒロバ

医師住宅敷地との

がる屋外階段

診療所とその他施設の 入り口を分ける事もで きるように計画

接続も検討

車寄せには救急車両

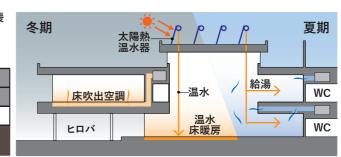
思いやり 駐車場

の寄り付きも可能

患者と医療スタッフ動

線が分かれるよう計画

車寄せ





町のシンボルとなる庇下の "ヒロバ" デーマ②「シンボル拠点」

周辺集落や木津信楽線などの主要な通りなどから、誘目性の高い場所に賑わいの拠点となる"ヒロバ"を設け地域住民に愛着と安心をもたらす景観を創ります。"ヒロバ"は移動販売車などの寄り付き場所、イベント広場、日常的な憩い空間など、ヒト・モノ・コトが集積する拠点となり、茶畑の景観と共に和東町のシンボルとなります。

町民に安心感を与える夜の風景

静かな茶畑景観の中に、夜でも集うことのできるシンボルが穏やかに浮かび上がります 豊かな自然の中で人々が活動する風景は、日 没後の時間でも町民に安心感を与えます。



様々な居場所を創るランドスケープテーマ③「独自提案」

庁舎と計画建物の間を"通りニワ"として捉え、敷地の地形を活かした段差や建物周縁の半屋外空間など手がかりに積極的に整備します。各施設のアプローチや段差解消スペースとして機能するほか、待合ベンチ、階段小広場、調理室の拡張領域となる縁側テラスや木陰などの小さな居場所が連続しながら敷地全体を緩やかに繋げる屋外空間です。"交流のイマ"には3方向に建物内部の活動が拡張できるテラスを設けます。

段階的な整備も考慮したレイアウトデーマ③「独自提案」

中溝役場線の拡幅や、対側の職員等駐車場の整備状況に影響を受けない外構レイアウトです。敷地外の駐車場整備が完了した後には、敷地北西の駐車場を広場として整備も可能です。





縁側テラス:調理室を中心に前面に開放 したテラス。車利用者の滞留空間であり、 調理室での飲食物を持ち出し、食事を通 したコミュニケーションなどが図れる。

駐車場17台

10 台

■ 階段小広場: 階段にあわせて連続した小さな広場が続きコミュニケーションの場となる。

通りニワ:ベンチや小広場など、小さな居場所が連続するスペース、各方面からのアプローチと庁舎との往来空間としても機能する。

ホール



庁舎



福祉サービスの総合拠点 デーマ③「独自提案」

過疎化や高齢化が進行する地方において公共施設の果たす役割は非常に大きいです。本計画では、広義の福祉サービスが享受できる拠点づくりをソフトとハードの両面から整備していく事が望ましいと考えます。日常的な居場所や、カジュアルに利用できるサービスなどの充実化を図り、地域住民の生活に寄り添う福祉拠点づくりを行い、交流や賑わいが自然に生まれる場づくりを目指します。

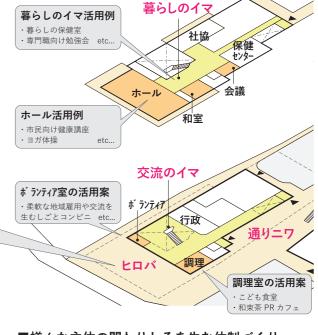


市民とともに創る デーマ③「独自提案」

市民ワークショップを継続的に実施します。市民 ワークショップでは施設の使い方や運営方法など について意見を交わし、民間事業者などとも協働 し主体的に使われる施設づくりを目指します。

観光×福祉 デーマ③「独自提案」

和束の魅力的な景観や情報を享受できる場を整えるほか、観光促進の活動を行っている和束町活性 化センターや観光案内所と連携を図り、地域内外 の交流が生まれる仕組みづくりを共に考えます。



庁舎

■様々な主体の関わりしろを生む体制づくり

